


ドクターゴンの「訪問診療」継続の危機

池間島にかつてあった診療所が閉鎖してから、島の医療を支えてきたドクターゴン診療所の訪問診療・往診が継続の危機に立たされています。

先月20日、九州厚生局より、ドクターゴン診療所に対して「16km以上離れた池間で訪問診療・往診を行う行為は、健康保険では認められない」との旨の指導がありました。保険医療制度上、「保険医療機関」から16kmを超える場所での診療は保険診療の適用外とされ、診察料や薬代はすべて患者負担となってしまうとのこと。これまで、池間島で保険医療を適用した訪問診療を続けてきたことを法律違反であると指摘され、ただちに保険医療を中止するようという指導でした。



発行者
NPO 法人いけま福
社支援センター
電話：75-2870

池間島では診療所の閉鎖以降、常に無医地区の不安を抱えて暮らしてきました。現在、池間島から16km以内の保険医療機関で、24時間、夜間診療・休日対応が現実的に可能な医療機関はありません。そのような中、島民の切実なニーズにこたえて診療を続けてくれているドクターゴンを島民はとても頼りにしています。もし、診察料や薬代が全額患者負担となれば、容易に診療を受けることがかなわず、寝たきりの高齢者や病人、移動手段をもたない島民が夜間・休日に急病となった場合、命にかかわる深刻な事態となっています。



島民の声を届けたい

このような状況の中、27日には池間公民館で自治会・池間島民の話し合いが開かれ、ドクターゴンによる池間島での訪問診療の継続を求める署名運動が始まりました。

29日、その日までに集まった359名分



12/2 宮古島市長へ請願書と署名を提出
(写真：宮古毎日新聞)

の署名と「池間島の訪問診療と往診」の継続についての「請願書」を九州厚生局沖繩支部長および九州厚生局長宛てに発送しました。

12月2日には、宮古島市長へも協力を要請するため、池間自治会が代表して島民の署名と請願書を提出しました。このことがメディアにも取り上げられ、大神地区をはじめ、池間島以外へも署名運動が拡大しています。しかしながら、2日、九州厚生局より再指導があり、保険医療が認められない厳しい状況が続いています。

13日に宮古島市役所にて九州厚生局沖繩支部と池間自治会による話し合いが行われる予定です。

署名運動も継続しています。12日現在、445名の署名が集まっています。一人でも多くの声を届けるため、ご協力ください。詳細はきゅぬふから舎にてお問合せください。

シマ学校開校近づく

島の高齢者の経験や生活の知恵を記録にとどめ、そこから次世代へ引き継ぐべき島の宝物を再発見していくとくみとして、「いけまシマ学校」がスタートします。「シマ学校」とは、高齢者のもつアマイウムクトウを、島内の後輩のみならず、島外からの訪問者（観光客や修学旅行生）へ直接的に受けわたしするなかで、①高齢者の誇りや生きがいを取り戻すこと、②地域文化の直接的な継承、③民泊の雨天時のメニューとしての活用、さらに、④高齢者が一定の収入を得ることを目指して行われます。

来年4月に開校を予定していますが、先月23日に第1回企画として「味噌づくり」が行われました。



11/21 離島体験で池間島を訪れた本部小学校5年生の子ども達がおばあと一緒に昔ながらの味噌作りを体験しました。隣近所同士で味噌をつくる懐かしい光景に、様子をのぞきにこられる方も多くみられました。

「シマ学校」では今後、島の高齢者を先生として迎え、こうじたて、島豆腐づくり、イキマフツ、歌謡、手仕事、織物などの講座を企画していきます。この他にも、ご要望やご意見がありましたらNPOまでご連絡ください。

2014年カレンダー

ミャークツツで先行販売し、大好評だった「池間の海のいきものカレンダー」を、ふたたび島民価格で販売します。12月15日より、離島振興総合センターにて1冊500円で販売します。数に限りがありますので、お早目にお買い求めください。



今月の行事予定

- 12月20日(金) マビトウダミニガイ
- 12月21日(土) 9時～15時
老人クラブ ニューススポーツ研修会@
@ 離島振興総合センター
- 12月24日(火) 18時より
第2回池間島歌謡ショー@池間公民館
- 1月2日(木) 新春マラソン大会